

「ええんちゃう。」

中央市立玉穂中学校三年 古屋 奈香

中学一年生のとき、母に一冊の本を渡された。その時からだろう、私の世界を見る目が変わったのは。

それまでは、人権やジェンダーについてさほど関心がなかった。本を読み、疑問に思っ調べていくうちに、私と違う人たちの存在に興味を湧いた。いわゆる、外国人やLGBTQの人などだ。身近なところでは、芸能界で女装をしている人。初めて目にしたときは衝撃的であり、普通ではないとまでも思ってしまった。今思えば、それこそが差別でとても恥ずかしいことだと気づかされた。

私たちの生活する日本には様々な国の人々が住んでいるが、海外と比較すればそれほどではない。そのため、日本と比べると人権差別などの問題が深刻となっている。また、本を読み私たち日本人が、海外では「イエロー」と呼ばれていることを初めて知った。今までそのようなことを言われたことはないし、差別をされているという実感もなかったので、少しショックを受けた。

私の周りには、父と母で国籍の違う両親を持つ子が沢山いる。中には肌の色が違う子や食文化に違いのある子も勿論いる。だからといって、私も私の友達も、今まで彼らを変な目で見たり、ばかにしたりすることはなかった。

ある日、新聞の記事に目を引くものがあった。それは、黒人の一般市民男性が白人の警察官に射殺された、というものだった。なぜ殺されてしまったのだろうか。私は理由が気になり、その先を読んでみることにした。しかし、読み終わった後も、私は内容を理解することが出来なかった。決して私に読解力が足りていないから、などというわけではない。黒人男性は「何の罪も犯していないから」だ。ではどうして射殺されたのか。その答えは「肌の色が違うから」なのだと思う。見た目が違うだけで罪悪感なく人を殺していいはずがないし、許してはいけない。だが、アメリカでは既に何千人もの黒人が命を奪われている。それだけではない。どんなに重い罪を犯したとしても、被害者が黒人で、加害者が白人であれば軽い罪で終わってしまうというのだ。信じがたいが、これが現状なのである。けれど悲しいことに、日本でも似たようなことが起きている。それは、性的マイノリティに対する問題だ。

先日、カミングアウトをしたモデルでタレントの男性が、SNSで誹謗中傷

を受け、自ら命を絶ってしまった。発信する側は名前も顔も明かさずに、ただその時の感情を何の躊躇もせず発信してしまう。受ける側の気持ちも考えずに。このように、誹謗中傷によって人が亡くなってしまうケースは日本だけではない。韓国ではさらに多くの事例があり、非常に問題視されている。言葉の暴力。間接的ではあるが、これも立派な犯罪だ。人権が守られずに人が亡くなってしまっていることに変わりはない。たった一言、何気ない言葉、それはときに人を傷つける凶器に変わってしまう。それを防ぐために、一体私たちには何が出来るだろうと考えていた。

そんな中、興味深いドキュメンタリー番組が放送されていた。とある高校の、担任の先生の話だ。その先生には、生徒たちに秘密にしていることがあった。それは、自分がジェンダーであること。受け持つ生徒の中には自己肯定感の低い生徒も多く、悩みを抱えている子もいた。「君たちはそのままでいい、そして自分を大切にしてください」という思いを伝えるため、生徒に打ち明けることを決意した。生徒にありのままの自分を受け入れてもらえるか心配になりながらも、全てを正直に話した先生。けれども生徒からかえってきた言葉は、予想もしていないものだった。

「ええんちゃう。」

私はこの言葉に込められた思いを知って心が軽くなり、世界がこんな人たちで溢れてくれればいいな、と素直に思った。今の私たちに出来るのは、程よく無関心であることではないだろうか。

人権とは、誰もが生まれながらにして持っている、人間として自由に生きていくための権利である。肌の色や性別の違いにとらわれず、誰もがありのままの自分で暮らすことが出来る、そんな世界になってほしい。そう強く願いながら、私は今日も多様性の中を生きていく。未知の世界を知り、認め合い、敬意を払う。それが人権問題解決の糸口であると私は考える。